



\*\*\*\*\* 小中学部保護者進路学習会 \*\*\*\*\*

令和7年10月3日(金)、医療法人仁精会三河病院看護部長の太田智香子様を講師にお招きし、「心を育てる関わり—心の成長と生活—」をテーマに学習会を行いました。

総合病院や知的障害者更生施設での専門的な知識、また自身の子育ての経験から下記の五つのキーワードで話を進められました。

- こころの特徴を理解する
- 生活リズムの大切さ
- 家庭と各関係機関の連携
- 薬物療法の役割
- 親と子の距離感



当日は約60名の方にご参加いただきました。「生活の中で心を安定させる大切さを感じた。子供だけでなく自分の心の安定も大切にしたい。」「成長期で大切な生活リズムや親子関係などの話を聞いて良かった。」「関係機関との関わり方を聞いて良かった。」などの感想が多く寄せられました。

\*\*\*\*\* 高等部保護者進路学習会 \*\*\*\*\*

令和7年12月4日(木)、つむぐ相続法務事務所の酒井太輔様と西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくるセンター長の川村顕治様とを講師にお招きし、「親子の幸せを守る方法—成年後見制度—」「就労選択支援事業について」をテーマに学習会を行いました。



当日は約40名の方にご参加いただきました。「成人まであと数年でやることを聞いて、とてもためになった。また機会があれば聞きたい。」「後見人という言葉は聞いたことがあったが、詳しく知らなかったのでとても勉強になった。」「分かりやすくご説明いただいている程度は理解できた。これから不明な部分が出てくると思うので、またお願いしたい。」などたくさんの感想をいただきました。

\*\*\*\*\* 事業所紹介コーナー \*\*\*\*\*

保護者進路学習会の際、会場内に事業所紹介コーナーを設置しました。学習会前後の時間に熱心に資料を読む姿が多く見られました。

今回は、

## 「意思決定支援」について取り上げます。



高等部保護者会のテーマの一つでもあった成年後見制度は、現在法改正に向けて検討・議論が進められています。そのなかでキーワードになっているのが障害のある方本人の「意思決定」です。

私たちは、「お昼ご飯は何にしよう？」「将来は何しよう？」などいろいろな意思決定をしながら暮らしています。意思決定支援とは、本人が自分のことを自分で選べるように支えていくことを指します。

### 「小さな意思決定」が将来の生活につながる？



意思決定支援では、本人を中心に考え、本人の気持ちを尊重することが一番大切です。将来どこで、誰と暮らすのか、どのように働いていくのかという「大きな意思決定」をするためには日頃から「何を食べるか？」「どの服を着るか？」などの「小さな意思決定」をして、その自分で決めたことが実現する経験が大切です。また、選択の結果として「あっちの方が良かったな…次はあっちにしよう！」と後悔や試行錯誤をする経験も同じく大切になります。小さな意思決定の積み重ねが、人生で大切な場面での意思決定につながっていきます。

### 意思決定を支える伴走者を身近に！



意思決定支援をするときは支援者が本人の前に出すぎたり支援者の価値観で決めたりしないような配慮が必要です。しかし、本人の表現しているものが本当に望んでいるものなのか、本人の希望する将来の生活につながるのか、ということは検討する必要があるかもしれません。

今の暮らしに加えて、〇か月後、〇年後の生活を視野に入れ伴走してくれる支援者（相談支援員等）を探してみましょう。「余暇の過ごし方や楽しみ方はこれでいい？」「健康や医療面は大丈夫？」「本人の所得や金銭管理は大丈夫？」など地域の社会資源や制度に詳しい人が身近にいることで、本人が自分の気持ちや考えを大切にしながら、納得して意思決定をしていけるようになると思います。